

「NO」の声、国会に届け

各地でデモ

ウオッチ 安保国会

国会審議が大詰めを迎えた安全保障関連法案をめぐる



松江城を背に抗議の声を上げる若者たち
12日、松江市



安保法案の廃案を求める緊急集会に参加した人たち
12日、松山市

り、12日も「廃案にすべきだ」「議論が足りない」とする声が各地で上がった。

神戸市の東遊園地では35団体の集会が開かれ、主婦や学生ら約1千人（主催者発表）が参加。「違憲はアカン」と書いた旗を掲げ、繁華街を練り歩いた。子ども2人と加わった主婦谷中

純子さん(43)は「この子たちも『自分たちも戦争に行くの』と心配しています」と語った。

愛媛弁護士会などは松山市内で緊急集会。1200人(同)が集い、小松正幸・元愛媛大学長が「法案が成立しても実行させない。このエネルギーを来年の参院選まで持続させよう」と呼びかけた。松江市では若者ら約40人がデモ行進し、大阪市天王寺区の平和講演会で戦争体験者が「戦争は父や夫、子どもを奪い、生活を破壊する」と訴えた。

延べ約100カ所の街頭とインターネット上で今月1日以降、法案への賛否を尋ねてきた「戦争法案を問う全国一斉市民投票実行委員会」は12日に大阪市内で結果を確認。投票総数は2万1368票で9割以上が

法案に反対だったという。実行委の西日本代表・山川義保さん(53)は「市民の圧倒的多数が廃案を求めている」と話した。

13日は被爆地・広島市の広島平和記念資料館の前で「NO WAR! 広島ウオークパフォーマンス」、同市中央公園で1万人の参加をめざす人文字づくりがある。大阪市の鞆公園にも近畿6府県の学生グループなどが集結する。